

担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい
投信
なるほど
リッパ

東証再編で変わるTOPIX

3年近くかけて影響を抑えつつ

来年4月4日、東京証券取引所(東証)の株式市場区分が変わります。日本株で運用するインデックス型の投資信託の多くは、「東証株価指数(TOPIX)」が値動きの目安。市場の再編でTOPIXはどうなるのでしょうか。

東証の市場は、現在、第1部、第2部、マザーズ、ジャスダックのスタンダードとグロースの五つです。2013年に大阪証券取引所と経営統合し

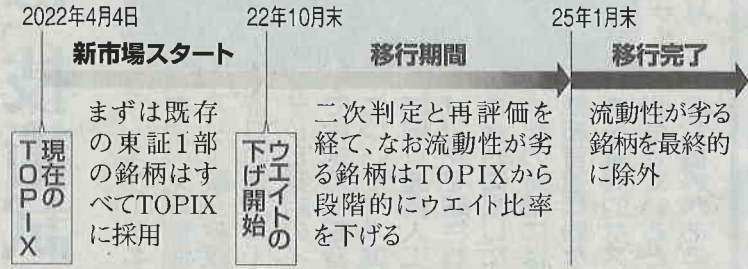
た際は、混乱を避けるため、市場区分や上場基準を大きく変えませんでした。統合から10年近くが経過。市場ごとの特徴を明瞭にしようという機運が高まり、「プライム」「スタンダード」「グロース」の3市場に再編されます。

東証の株価指標にはいろいろな種類があります。市場区分の再編で存続する指標、なくなる指標のうち、主なものは表のとおりです。

さて、TOPIXです。しだいにインデックス運用が広がるにつれ、TOPIXも課題が指摘されるようになりました。規模が小さく、流動性が低い銘柄への影響です。

現在のTOPIXの構成は、東証1部に上場する約2100社すべて。中には市場に出回る株式数が少ない銘柄もあります。それでもインデッ

TOPIXは運用などへの影響を小さくするため、徐々に移行する



2022年4月4日以降、東証プライム市場に新規上場、または市場変更(TOPIXを構成する銘柄を除く)した銘柄は、上場、変更の翌月末にTOPIXへ追加される。日本証券取引所グループ「TOPIXの見直しの基本方針」をもとに作製

クス運用のためには買わなければなりません。流動性の低い銘柄を大量に買えば、株価はつり上がってしまいます。

そこで再編後のTOPIXには「流通株式時価総額100億円以上の銘柄」という基準を設けます。多額の資金流入に耐えられる銘柄のみで算出。プライムに限らず、スタンダード、グロースの上場銘柄も基準を満たせば、TOPIXの対象になります。

例えば、フリマアプリ大手のメルカリは、現在はマザーズ上場のため対象外ですが、時価総額が大きく、新たなTOPIXには採用される可能

性がありそうです。

銘柄入れ替えは、一気に行うと指標としての連続性が保てません。また、TOPIXから除外される銘柄を投資信託や年金資金などが一斉に売りに走ると、株価の急落を招く恐れがあります。

そこで東証は、市場への影響が極力小さくなる方法で移行することに。再編される前営業日である来年4月1日時点でのTOPIXの構成銘柄は、基準を満たしていなくても、まずはそのままです。その後、除外する銘柄の比率を徐々に下げて、25年1月末に移行が完了します=図。

■どうなる？ 東証算出の株価指標

継続	TOPIX(東証株価指数)
	※東証マザーズ指数 東証REIT指数
新設	東証プライム市場指数
	東証スタンダード市場指数
	東証グロース市場指数
	旧東証市場第一部指数
廃止予定	東証第二部株価指数
	JASDAQ INDEX

〔主な指標を筆者まとめ。※は計算方法を一部変更し算出を継続〕